



鳩のジェスチャーでギネス世界記録を達成（香港中華YMCA）

# World YMCA NEWS

## 4月号



## 平和の日～チャリティーイベントを開催 （香港中華YMCA）



115年の歴史を持つ香港中華YMCAは、香港のコミュニティや世界各地で、人々の連帯と平和の実現のために活動してきました。2007年からは「平和の文化」キャンペーンを行っています。このキャンペーンは「人々が互いを尊重し理解し合う調和のとれた社会形成」を目的とし、さまざまなイベントで多くの香港の人に参加を呼び掛けながら進めています。また、このキャンペーンは、世界YMCA同盟の「平和の日」を推し進める活動でもあります。

2016年11月20日、香港中華YMCAは、「平和の文化」キャンペーンの一環として、チャリティーイベントを開催しました。このイベントでは500人以上のYMCAメンバーが香港の街中でオリエンテーリングを行い、とすると見過ごされてしまう香港の街の魅力を再認識する機会を持ちました。このオリエンテーリングでは「必ず慈善活動をする」ことがメニューに組み込まれました。イベントの参加者とワイズメンズクラブの約8500ドルの寄付によって、高齢者に温かい食事を提供するプロジェクトが実現しました。

このイベントの参加者は、最後にブリッジストリートセンターに集まりました。ここは1918年に建設された歴史的建造物で、香港中華YMCAの最も古い活動拠点でもあります。この場所で、528人のYMCAメンバーが手で鳩の形を掲げて「同じ会場で同時に鳩のジェスチャーを行う人数」のギネス世界記録に挑戦し、見事達成しました。鳩は平和の象徴であり、2016年のYMCA平和の日に向けた香港



からのメッセージです。

「平和の文化」キャンペーンが始まってから10年が経過しました。香港中華YMCAは、これからも平和教育に取り組み、争いのない安定した社会が重要であることを伝えていきます。「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。」（ヤコブの手紙 3.18）

（アジア・太平洋YMCA同盟 2017年1-2月eNewsより）



## ボーンマスYMCA(イギリス)滞在記 (ヨーロッパYMCA同盟)



私(アンドレア・ラザールさん)が、ルーマニアからイギリス南部の街、ボーンマスに来てから4か月が過ぎました。私は、ルーマニアでYMCAのボランティア活動を8年間行い、今は、YMCAの欧州ボランティアサービス(European Voluntary Service)の一員として、ここに来ています。



アンドレアさん(左から2人め)

私が担当しているプロジェクトは、ホームレスの支援が目的で今年の9月まで続きます。この期間、私はボーンマスYMCAのマーケティング部門で活動します。ボーンマスYMCAは、さまざまなイベント(例えば、クリスマス・コンサート、若者の交流イベント、チャリティーラン、YMCAの歴史を取り上げた劇、クイズ大会、人種差別に反対するサッカー・キャンペーン、クリスマス・キャロルのイベント、クリスマス・ミニ・マーケットなど)を開催して資金を集めます。私はイベントのプレスリリース、SNSを使った情報の拡散、新しいYMCAブランディングなどに基づくプロモーション資料の制作などを担当し、これまでの経験を生かしながら活動しています。

今、準備を進めている大きなイベントがあります。このイベント「スリープ・イージー」は、経済的に不安定な若者を支援する目的の寄付イベントです。「スリープ・イージー」は簡易シェルターの名前でもあります。住む家を失うとやむを得ず外で眠ることもあります。そういう時に役立つのがこのシェルターです。わたしもこの独創的なデザインの「スリープ・イージー」を使って外で寝てみようと思います。できるだけ多くの人にこのシェルターが利用いただけるよう、このイベントを成功させます。



簡易シェルター「スリープ・イージー」

仕事はとても充実していますし、週末にはパーティーを開いて友だちと楽しんでいます。寮では、静かな、落ち着いたパーティーを行います。時々にはラテックラブでにぎやかに過ごします。ボーンマスにはイギリス人よりもラテン系の人がたくさん住んでいるのでラテックラブには多くの人が集ってたいへん盛り上がりです。私を含めた欧州ボランティアサービスのメンバーはみんな、美しいこの国イギリスが大好きです。ボーンマスはそれほど雨が降りません。この地の素晴らしいビーチはイギリスではナンバーワン、ヨーロッパでもトップ4に入ると言われています。夏が待ち遠しいです。たくさんの美しい庭園があり、散歩するだけでも楽しめます。秋には、多くの芸術イベントが開催されました。冬には、アイススケート場や居心地の良いクリスマスマーケット、ボーンマス・アイと呼ばれている気球が私たちを驚かせました。きっと春が近づくと、もっとワクワクすることに出会えることでしょう。楽しみにしています。

新しい文化に触れた時に多くの人を感じるようなカルチャーショックは私にもありました。よく、イギリス人はクールと言われますがそんなことはありません。とてもフレンドリーで、おしゃべりが好きな人たちです。みんな、きっと友だちになれる。ボーンマスでの生活はまだ続きます。イギリスの生活についてもっといろいろなことを伝えることができるようになります。最後までお読みいただきありがとうございました。

アンドレア・ラザール、ルーマニアYMCA  
(ヨーロッパYMCA同盟ホームページより)

## 考古学者アンナさんの難民支援 (世界YMCA同盟、テサロニケYMCA)



2016年10月、世界YMCA同盟はギリシャのテサロニケにオフィスを設立しました。世界YMCA同盟はヨーロッパYMCA同盟と協力し、このオフィスを通じてテサロニケYMCAの難民プログラムを支援しています。世界YMCA同盟のスタッフであるリサさんとミハイルさんは、2月3日にテサロニケYMCAの難民支援プログラムのリーダーであるアンナさんと話をしました。39歳のアンナさんはギリシャのレスボス島生まれの考古学者です。アンナさんは、家族に会うために故郷のレスボス島に戻ったとき、初めて難民に会ったそうです。



子どもと遊ぶアンナさん

テサロニケの難民への支援は、難民が置かれている状況に合わせて変化してきました。最初は、より良い生活を目指してギリシャから他国に行こうとしている人にも、ボートでギリシャに到着したばかりの人と同じように、物資の支援を行っていました。次の段階では、難民がより暮らしやすい生活ができるように難民キャンプの中で活動しました。キャンプの中で楽しく過ごせるように子ども達と遊んだり、演劇公演を企画することもありました。今は、キャンプの中に住んでいる人はほとんどいません。難民はキャンプを出て、家族単位で街中の家や集合住宅に住んでいます。テサロニケ市は、地域やYMCAを含むNGOの支援を受けREACT (Refugee Assistance Collaboration in Thessaloniki)プログラムを実施しています。このプログラムは、難民がギリシャに滞在する期間の長短にかかわらず、ギリシャ社会に溶け込んで市民と共生することを目指しています。

アンナさんは「REACTプログラムは難民だけでなくギリシャのコミュニティにこそ必要」と言います。REACTプログラムに参加しているテサロニケYMCAは、主にシリアとアフガニスタンからギリシャに来た65の家族をサポートしています。アンナさんは、リサさんとミハイルさんに難民の子ども達の何百枚もの写真やビデオを見せてくれました。最近、ピアノのレッスンを始めた子どももいるそうです。アンナさんが活動について説明してくれました。「子ども達に、ギリシャの建築の歴史や文化を教えています。子ども達が落ち着けるよう『おとぎばなし』として話します。子ども達の両親である大人のためには英語のクラスを設けました。クリスマスは彼らの故郷であるシリアやアフガニスタンの伝統的な食べ物と並べて一緒に楽しみました。私はみんなのことが大好きで、私の子ども達もみんなと一緒に遊ぶことがとても好きです。難民の子ども達は、最初は表情が硬く笑顔を見せるまで数週間かかりますが、子ども達が描く絵を見るとその理由が理解できます。考古学のように、私は子ども達の絵から真実を知ることができます。」



難民の子どもが描いた絵

アンナさんは最後に言いました。「私は考古学者です。歴史を愛しています。テサロニケの難民と一緒にいると自分自身が歴史の一部になっていると強く感じます。」その言葉を聞いて、リサさんとミハイルさんは自分達に問いかけました。「私たちは歴史の一部になる準備ができていますか？」

(世界YMCA同盟 ホームページより)



アパートで生活する難民の家族